

足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	第2回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
事 務 局	地域のちから推進部 生涯学習支援室 室長 田ヶ谷 正 地域文化課広域施設係 係長 原田 裕介 係員 竹本 賢貴		
開催年月日	令和3年9月7日（火）		
開催時間	午後1時30分 ～ 午後4時30分		
開催場所	ギャラクシティ レクリエーションホール3		
出席者	渡辺 千歳 委員 （東京未来大学 こども心理学部教授）	山縣 朋彦 委員 （文教大学教育学部 学校教育課程 教授）	伊志嶺 絵里子 委員 （東京藝術大学音楽学部 非常勤講師）
	酒井 雅男 委員 （銀座ヒラソル法律事 務所 弁護士）	高橋 佑介 委員 （足立区立小学校PTA 連合会副会長）	四宮 淳司 委員 （足立区少年団体連合協 議会副会長）
欠席者	なし		
会議次第	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 資料確認・説明 4 指定管理者ヒアリング 5 質疑応答 6 意見交換 7 評価点決定 8 閉会		
資 料	資料1 業務評価シート 資料2 業務評価チェックシート 資料3 加点提案書一覧 資料4 条例等一式 資料5 令和2年度仕様書 資料6 令和2年度事業一覧表 資料7 令和2年度各種報告書 資料8 令和2年度広報誌一式		
そ の 他			

【開会】

<原田係長>

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。第2回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきたいと思います。私、足立区役所地域文化課広域施設係長の原田と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、開会に先立ちまして、渡辺委員長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

<渡辺委員>

こんにちは。第2回の今回は、評価を決めるという大事な仕事です。最初は質問を伺うことになると思ひますので、皆さんどんどん出していただくようお願ひいたします。それではどうぞよろしくお願ひいたします。

<原田係長>

ありがとうございます。

それではここからの進行を委員長にお願ひしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

<渡辺委員>

はい、それではただいまからギャラクシティの令和2年度運営に係る第2回運営評価委員会を開会いたします。早速ではあります、本日の議事進行に移りますので、まず、本日の資料について事務局より説明をお願ひします。

【資料確認・説明】

<渡辺委員>

ありがとうございます。続いて、指定管理者のヒアリングに移らせていただきます。本

日のヒアリングでは、前回のヒアリングから追加の質疑や新たな疑問点などを詳しくお聞きいただければと思ひます。

それでは、まず指定管理者のヒアリングになります。

<原田係長>

全体を通しての質問がございましたら質問していただければと思ひますし、どのページでもかまいませんので、ご意見いただければと思ひます。

<渡辺委員>

前は加算提案書を主にお話しいただいたと思うのですが、それについてでも、それ以外でも何かございましたらどうぞ。

<山縣委員>

動画配信コンテンツとありますけれども、前回は言ったかもしれないけれども、中身がなかなか面白いと思ひます。それで、再生回数ですが、今ここに出ている資料は3月現在で今はもうちょっと多くなっているかもしれませんが、配信再生回数がちょっと少ないかなという感じがするんですけれども、それを増やす方法というか考えはありますか。

<館長>

具体的にはマルチたいけんドームの動画ですか？

<山縣委員>

そうですね、歌舞伎の方は再生回数がアップしていますよね。歌舞伎の再生回数が多いかどうかなどの規模感がわからないですが。

<館長>

まずマルチたいけんドームの配信ですが、

こちらは4月5月が休館になったときに色々話をしている、まるちたいけんドームだよりを作るなどオンラインコンテンツの作成に取り掛かりました。また、動画をアップしてまるちたいけんドームを味わってもらおうという取り組みも始めました。このまるちたいけんドームの動画は内部の職員が作りました。動画については、ギャラクシティエンターテイメントはプロに作ってもらっています。一方でまるちたいけんドーム動画はエンターテイメント動画とは違い、学びの要素が入ってくるので、少し対象者が狭いものになっています。天文ファンが観ることを想定しながら作りこんでいるものですから、どうしても再生回数が少なくなります。

紙媒体では難しかったので、SNSやホームページなどで動画を上げてPRしました。ハッシュタグを付けるなどの工夫はしましたが、結果としてドームや工作の動画が伸び悩みました。工作に関しても、来館ができない厳しい時期に作成しまして、自宅で工作を楽しんでもらいたいという趣旨で作りました。やはりプロと内部で作ったものは、再生回数に差があるとは感じています。

「おうちでギャラクシティ」にはまだ作り込む余地があると思います。ギャラクシティエンターテイメントはプロに編集していただいて、再生回数を増やす工夫がなされています。逆に工作等の動画はそのままアップして子どもたちに楽しんでいただこうとしています。作ったからには、再生回数が少ない訳にはいけないので、今後PRしていけないと思います。

#### <山縣委員>

コロナが収まった後でも継続していきますか？私としてはもう少し再生回数が増えてほしいと思います。中身は非常に面白いので、

もう少し宣伝すれば増えるのではないかと思います。素人ながらもったいないと思いました。

#### <村田館長>

中身に関しては利用者様含めて好意的に見ていただけている感想が多かったものですから、より多くの方に見ていただけるよう努力をしたいと思います。

#### <渡辺委員>

コンテンツを作って、良いものができていてもなかなかアクセスが少ないのはすごく残念なことだと思います。

アウトリーチですが、実際にプラネタリウムが持っていけなかったのは分かるのですが、なにか別の方法でもっと他に何かできなかったのかと思います。何かやったことがあれば教えてください。

#### <村田館長>

アウトリーチは全くゼロというわけではなかったのですが、同じ会社で運営している学童保育施設では実施しましたが、本来、小学校も計画に入っていたのですが、さすがに小学校ではできませんでした。

あと毎年実施していたのは、移動式プラネタリウムを持って、近隣の商業施設、例えばアリオやイオンなどに行っていました。

現在はどこも受け入れが難しいので、それ以外の方法で実施できればというところで、できなかったということが正直なところです。

それに代わるものとして、私たちの魅力をお届けするという点で、動画配信を強化しました。

<渡辺委員>

こういうものをアウトリーチと言うのかわかりませんが、リモートでつないでギャラクシティでこんなことやっていますというのを小学校なり学童保育なりに伝えるというのはできないのでしょうか。

<村田館長>

学校に直接学校にこういうものを行っているというお知らせですか？それはできます。

<渡辺委員>

紙だけ来ると見ないという人たちが前もいた気がするので、人が入ってリアルタイムに交流するとすごく近くなると思います。何か別のかたちでもきちんと接してもらおう工夫をしてみるといいかも知れません。

<伊志嶺委員>

学校でなかなか音楽ができなくて、そういう学校とオンラインで、リアルタイムで、そういう取り組みをしているところがあって、私も実際に入らせていただいたんですけど、福島県のいわき市、音のタイムラグは出てきますが、子どもたちがリアルだと恥ずかしがるところが、画面一つ隔てることで、すごく喜んでいまして、音楽の授業がつまらないものになっている現状のなか、こういうものもありなのかなと思いました。おそらく今回コロナの現状で、消毒とかオンラインにお金もかかるし、クオリティも上げるための知識もないし、とても難しく、スタッフさんが疲れてしまっているという現状を聞きました。毎日消毒するなど、スタッフさんの労働環境はいかがですか。

<村田館長>

まるちたいけんドームの動画は職員が自主制

作しており、労力はかかっています。しかし、お客様から良い反応をいただけたり、やりがいもありますし、動画制作に時間を取られて疲弊したというのはあまりないと思います。ただ、動画作成を外部に依頼するなどのお金はかかりました。複数の業者から見積もりをとって、なるべく安価でクオリティの高いものを選んだつもりです。

<酒井委員>

加点提案書にテレワーク推進というものがありました。出勤率95%減という成果が得られたとありますが、その間テレワークですので自宅で仕事をされていると思います。自宅でしていただいた仕事が、ギャラクシティの運営に、特にコロナ対応でお客様を呼べるということにどれだけ貢献したのか、経営側の視点でどのようにお考えなのかお聞きしたいです。

<村田館長>

4月5月が休館になりまして、ギャラクシティはお客様がたくさん来場して成り立つ施設ですので、テレワークに向いているかどうかわかりませんでした。その中で開いたことを考え、ギャラクシティの魅力や情報を止める訳にはいかないと、組織を横断してプロジェクトチームを組み、クレンリネス活動を始めました。普段できなかったことをまず清掃から始めようとなりました。また、広報プロジェクトも行いました。4月5月にズーム会議を重ねて、進めてまいりまして、その結果としてオンライン配信を行いました。

<酒井委員>

出勤者7割削減のところ、95%となっているのが、一見すると評価されるのですが、お客様を呼ぶ世界であると考え、姿

勢が問われるという少し厳しい視点で見えています。

広報の魅力はホームページだということでしたが、ホームページを魅力的にする方策としてどのようなことをされましたか。

<村田館長>

紙媒体がこれまでメインだったが、例えば足立区の全小学校69校の児童にお渡ししていたものができなくなるなど、紙媒体にかわるものとしてインターネット・ホームページで案内するしかありませんでした。ホームページおよびSNSを強化しました。ホームページ中心に情報を集約しました。4月5月は休館だったものですから、6月1日に限定的に再開しましたが、例えば、遊具は使えず、プラネタリウムは50名からと、少しずつ開ける中でプラネタリウム平日キャンペーンをやりまして、平日投影番組を見てもらいスタンプを押しプレゼントとあげるようなものをした。積極的には促せないが、開館している以上は人には来ていただかないといけないので、こういったキャンペーンをやりながら、ホームページに情報を集約しました。

<酒井委員>

日々更新されるホームページの情報にはどのようなものがありますか。

ギャラクシティがどのような魅力がある施設なのかということが、毎日アップされていたのかなということです。

<村田館長>

毎日でしょうか。

<酒井委員>

毎日です。ホームページというものは毎日アップされなくてはならないと思います。一回

訪れてもギャラクシティはこういう魅力的な所だということスタッフの方たちに、テレワーク中の職員にギャラクシティの魅力を紹介させるコーナーがあってもよかったですと思います。ひとつひとつの動画の再生回数が少ないというのも、ホームページの扱いが弱いとおもわれるのですね。せっかく良い施設ですからうまく改善してほしいと思います。

<村田館長>

広報担当含めて在宅でしたので、毎日上げるということではできませんでした。定期的には更新していましたが、そこは確かに弱かったと思います。

<酒井委員>

クレンリネス活動を行うにあたって、業者を利用することもあると思いますが、95%削減というなかで、スタッフ総出でやられたのかなど。お客様を受け入れる側がいなければ始まらない施設であるということをもう少し理解していただけたらなと思います。

<村田館長>

クレンリネス活動もレポートしては上げておりましたが、頻繁には上げられる状況でもありませんでした。

<酒井委員>

クレンリネスキャンペーンはコロナ対策ではなく、当たり前のことだと思います。売りにも何もならないと思います。ギャラクシティの魅力を発信するという点で知恵を発揮していただけたらなと思います。

<高橋委員>

すいません、先週欠席させていただきました。先週と重複している箇所があれば、恐縮

ですが、先ほど学校に対しての広報が不十分ということであったと思いますが、小学校69校に対してどのようなアプローチで行くことを考えていますか。

<村田館長>

弊社の学校用務を請け負っておりますので、そのルートを使ってということはありません。

<高橋委員>

交換便は制限がかかったのですか。

<村田館長>

はい。

<高橋委員>

今後の取り組みとして、参考にさせていただけたらなと思ひまして、オンライン授業を進めているのですが、子どもたちはそういうものを喜んでいて、キーボードの練習をしている。オンライン化は学校も進んでいるので、ギャラクシティのURLを貼らしてほしい、授業にギャラクシティの事業を組み込んでほしいなど、ギャラクシティを盛り上げるという意味はもちろん子どもたちへのコンテンツとしても提供してもらいたいと思います。

<村田館長>

ありがとうございます。

<四宮委員>

前回、せっかくこれだけのコンテンツを作っても見ていただいている人数が少ないという話になりました。作ることに集中していて、これをどうやったら見てもらえるかというところまでやるのが一つの流れだと思うのですが、作ることに精力を使い果たしてしまっ

ているように感じました。前回の話でも130万人の来場が30万人に減ったという話がありました。しかし、区民の割合が増えているとの話もありました。また、小学生が消えてしまっているとの話もありました。そういった家にいる子どもたちへのアプローチが大切なのかなと感じました。フォロワーが3万人いると言われている区のTwitterなど大きなものを活用して、区と協力していくことも大切だと思います。

<渡辺委員>

他にはいかがでしょうか。

<山縣委員>

私は一転してアナログなものについてですが、「まるちたいけんドームだより」が個人的には非常に気に入っていて、昔の渋谷のプラネタリウムにこのようなものがあって、すごく懐かしさを覚えました。今の子どもたちがどのように感じるのかわかりませんが、これはぜひ継続していただきたいと思います。簡単そうに見えますが、書くことは非常に大変だと思います。

<高橋委員>

保護者宛てのメールなどが学校にはありませんが、youtubeに工作が上がっていて、これを学校の子どもの見れば再生回数は増えると思います。それを送っていいかどうかは別として、学校は協力できるようなコンテンツだと思いますし、各家庭には確実にアプローチできるツールだと思いますので、ぜひご検討いただけたらと思います。

<渡辺委員>

足立区にはこのようなものがあるという映像コンテンツを見て感想を書くというものな

ど学校の教科に関わるものを取り組めば、もっと学校を取り込めて、子どもたちにアプローチできるのではないかと思います。地域的なものや全国的なものがあれば、今回いなくなってしまった子どもたちにアプローチできるのではないかと思います。今まで来ていた子どもたちをつなぎとめて、新しい子どもを呼び込んで、様々なことを行っていただけたらと思います。

<渡辺委員>

他に何かある方はいらっしゃいますか？  
では、そろそろお時間にもなりましたので、ヒアリングはここで終了させていただきます。

<原田係長>

それではここで指定管理者の方は退出となります。それでは、評価点の決定に移りたいと思います。管理状況のチェック項目につきましては、問題ないようでしたら区のモニタリング結果を追認していただくことにしたいと思います。それ以外の管理状況の加点項目、事業のチェック項目、加点項目につきましては、皆さんで話し合って点数を決定していただきたいと思います。

まず管理状況のチェック項目について、修正が必要な箇所はありますか。

<酒井委員>

管理状況について、指定管理者の評価、担当課の評価とあって、担当課の評価の点数をそのままスライドとなりますか。

<原田係長>

管理状況にも加点項目がありまして、加点するかどうかで点数が変わりますので、そのままではなく、加点項目も踏まえて点数を決

定いただければと思います。

<原田係長>

いかがでしょうか。そうしましたら、管理状況のチェック項目については、区のモニタリング結果を追認ということによりよろしいでしょうか。

続きまして、管理状況の加点項目についてご審議をお願いいたします。

<高橋委員>

足立区役所内のテレワーク実施率はどのようになっていますか。

<原田係長>

コロナが始まってすぐの昨年度始めには在宅勤務などを実施していました。最近では、ワクチン接種など区全体で取り組まないといけないことがあり、それらに注力していったという状況です。

<高橋委員>

それを踏まえて、国の推進もあり、民間としては、テレワークは当たり前の状況なのかなと思います。しかし、区の状況をお聞きして、テレワークが難しいという状況を踏まえるとマルになるのかなと思います。しかし、指定管理者側としては休館しなければならないという状況になって、職員が全員出勤しないと仕事が回らないという状況ではない。となると、この加点は甘いかなというように感じます。即座に取り組みを行って実績があったということは評価できますが、当たり前かなとも思います。

<渡辺委員>

学校関係でも急にオンラインが進んだので、当たり前といえば当たり前だだと思います。

<伊志嶺委員>

テレワークによって、スタッフ内で新しいコンテンツを作ったなどがあれば良いのですが、どう評価すればというところですね。

<渡辺委員>

ただ2点の加点は多いというような気がしますね。

<酒井委員>

マイナスではないけれどもプラスにもできないような感じですね。

<原田係長>

0点、1点、2点というような感じになるのですけれどもいかががいたしましょう。

<渡辺委員>

0点でも良いかなと思うのですが。

<酒井委員>

これは0点ですね。

<渡辺委員>

はい、それでは加点なしということにいたします。

<原田係長>

続きまして、同じ管理状況で加点提案書が出ております。クレンリネスキャンペーンです。休館中に館内の清掃消毒をして、その結果を積極的にPRして安心して来館してもらえようとする取り組みです。いかがでしょうか

<酒井委員>

これも先ほどと同じで当たり前のことで、実

際にアピールが上手くて、それによって集客があったということなら評価できますが、いずれもないという訳ですね。

<渡辺委員>

積極的に何かしたという訳ではないですね。

<高橋委員>

しいて言えば、それをPRしたというところでしょうか。不安で行けない人に対してPRしたということですかね。ただ、掃除自体はどこもやっていることですので。

<渡辺委員>

建物がきれいになったことは良いですけど、やっぱり換気ができているかというところですよ。

<原田係長>

基準値はクリアしております。また、地下の部屋もあるのでそこは各部屋の扉を開けて換気しております。ただ、音が漏れてしまうという課題もあります。

<渡辺委員>

これも2点の加点となっております。

<酒井委員>

通常のことだと思います。

<渡辺委員>

0点でお願いします。

<原田係長>

管理状況の加点項目は以上となります。続きまして、事業評価のチェック項目について順次確認いただきます。チェック項目で主だ



ったところとしては、広報活動です。コロナの影響で広報誌の部数を減らしており、また電車の中吊り広告からモニター広告に変えるという新たな取り組みを行いました。

5か年計画の計画通りにいっているかというところで、指定管理者がバツとしていて、区のモニタリング結果でマルとしているところは、コロナの影響がありやむを得ず達成できなかったということでマルとしております。

<酒井委員>

数字が出なかったことはやむを得ないと思いますが、プラスで評価するということは理解できないです。

<山縣委員>

ある程度評価が下がると契約打ち切りになるのでしょうか？

<高橋委員>

評価しないという選択はありますか？

<原田係長>

コロナ禍で事業が予定通りできなくて、項目通りの評価が難しいという状況ですけれども、評価は行いたいと思います。

<高橋委員>

加点法ではなく減点法ということですね。

<酒井委員>

もしそうであるならば、区の基準に沿ってコロナの影響でやむを得ないからマルと付けられているのであれば、委員会では修正できないということですか。

<原田係長>

いえ、あくまで区のモニタリング結果ですので、コロナの影響があったとはいえマルにはできないのではないかとということでバツにさせていただくことができます。委員会として評価していただきます。

<田ヶ谷室長>

補足ですが、区としては不可抗力で達成できなかったのでマルとしていますが、区がマルを付けたからといってマルを付けないといけないという訳ではありません。

<高橋委員>

確かにやっている側としてはコロナであろうができてないものにはバツですね。周りから見るとコロナだからマルということもわかります。

<渡辺委員>

内容にもよると思います。アウトリーチが出来なかったとありますが、もう少し工夫は出来たと思います。事業者が×というので、それでいいかなという気もします。コロナがあっても、もう少し5か年計画に沿ったかたちでできたかなという気がします。

<原田係長>

そうしましたら、チェック項目については指定管理者の自己評価と同じでよろしいでしょうか。加点項目についてはいかがですか。

<渡辺委員>

今では動画再生数が伸びているとありましたが、あくまでも令和2年度のもので、それを考えると2点の加点は多いと思います。

<伊志嶺委員>

昨年、私の大学で17分の動画を作成しましたが、全く宣伝をしなくても3千回は再生されました。それを受けてこの数字を見たときにおやっとは思いました。こちらの方がよほど視聴されている方が多いと思われるので不思議だなと思いました。

<原田係長>

そうしましたら、成果としては動画再生回数が少ないため不十分であるということで、加点1点でよろしいでしょうか。

続きまして、遊び創作科学体験ですが、こちらも数値目標を満たしていない項目については、指定管理者評価ではバツにしており、コロナの影響があったということで区ではマルとしております。

<酒井委員>

取り組みとしては良いと思います。

<渡辺委員>

こちらに関してはコロナの影響が大きいと思いますので、救済が必要かなと思います。

<酒井委員>

今回に関しては2点で良いと思います。

<原田係長>

続いて、加点項目としてオンラインコンテンツがあります。ブラウザと連携し、家でも工作できるものを提供し、さらにそれをギャラクシティでの催し物と連動させたものとなっています。

<酒井委員>

普通のことではあると思いますが、評価は出来ると思います。

<渡辺委員>

加点2点ですかね。

<原田係長>

続きまして、運動体験です。指定管理者評価では、運営については遊具が開館している間は出来たところはマルとなっており、それ以外の数値目標は達していないところはバツとなっております。こちらでもコロナの影響があったということで区ではマルとしております。

<酒井委員>

加点項目については、加点対象には全くならないのかなと思います。事業内容を制限してやりましたとか再開するための手順などです。

<原田係長>

チェック項目についてはいかがでしょうか

<渡辺委員>

こればかりは人が来ないとどうしようもないところですね。

<高橋委員>

個人的にはチェック項目は区にならってマルで良いと思いますが、加点については取り組まざるを得ないことだと思うので、加点なしで良いと思います。

<原田係長>

チェック項目については区のモニタリング結果と同じで、加点項目については加点にならないということで、0点でよろしいでしょうか。続いて、子育てサロン事業です。一部実施できた事業については指定管理者もマルとしております。こちらについては加点提案書

が提出されていません。

<渡辺委員>

こちらは仕方ないと思いますので、3点で良いと思います。

<原田係長>

続いてまるちたいけんドーム事業です。チェック項目についていかがでしょうか。

<渡辺委員>

配信など工夫はされていますけれども、チェック3点加点2点は多いように感じます。

<酒井委員>

加点提案書について気になったことは、ホームページ閲覧数2位とありますが、施設ホームページ内の2位ということで評価には当たらないと思います。

<原田係長>

チェック項目については区のモニタリング結果と同じで、加点項目については1点ということでよろしいでしょうか。続いてはアウトリーチプログラムになります。体験キットの貸し出しPRはコロナ禍とはいえ全くできていませんでしたので区としてもバツとしています。

<酒井委員>

アウトリーチについてはもう少し工夫ができたところだと思います。最初から学校を回るという意識がありませんでした。不足だったという意識がないことが問題だと思います。

<渡辺委員>

アウトリーチは離れたところに行くことが

良いのに、周辺だけ回るのはいかがだろうと思います。

<酒井委員>

この事業者は足立区の他の施設を持っていて、そこを頼ろうという意識は見えるのですが、ギャラクシティはそのような意識でやり切れるようなところではないので、このままでは勝負できないと思います。

<高橋委員>

少し物足りないと思います。酒井委員がおっしゃるように外に向けてが大事でそれが出来ておらず、せめて中だけでもということでも69校すべて回り切れておらず、学校を回らずとも良い方法を打っていれば良いのですがそれもないので中も外も中途半端だと思います。

<伊志嶺委員>

アウトリーチは学校以外でも現在色んなところに広がっている状況であるのに、閉鎖的になってしまっています。

<渡辺委員>

事業者の方が頭から出来ないと決めてしまっているように感じます。

<原田係長>

そうしましたら、事業者の評価と同じ、最少点となる1点でよろしいでしょうか。

続きまして、開発事業です。こちらについては指定管理者、区ともにすべてマルとなっております。こちらは加点提案書もあり、VR撮影を行ったものです。

<酒井委員>

こちらは前回お話があった、VR撮影は良

いものをやりましたが、現在は見られないものですよ。これも中途半端だと思います。

<渡辺委員>

これはいつまで見られたのですか。

<原田係長>

12月までです。

<田ヶ谷室長>

VRを無料で1年公開していただいて、それ以降は月々いくら払うと継続できますというお話でした。もともと権利を持っていた会社がその権利を別の会社に移行したことでやむを得ず継続できませんというお話になってしまいました。その中で国立科学博物館はアクセス数が非常に多かったものですから残ったと聞いております。

<高橋委員>

開発ということで新たな取り組みとしてはやりやすかった年ではあったかなと思います。やらざるを得なかったと言いますか。

<酒井委員>

成果としてどうかというところですね。アクセス数が多ければ良いのですが。やったこと自体は良かったけれども成果としては評価できないですね。

<渡辺委員>

そうしましたら、加点は1点ということにいたします。

<原田係長>

こちらチェック項目3点、加点1点となります。続きまして、ふれあい交流事業です。加点提案書の提出はありません。

<渡辺委員>

こちらは3点でよろしいですかね。

<原田係長>

続きまして、大人体験事業です。こちらは数値目標に達成していないため指定管理者はバツとしており、区はコロナの影響があったとマルにしております。こちらは加点提案書の提出はございません。

<高橋委員>

こちらは逆に大人向けでしたら実施しても良かったのではないのでしょうか。テレワークで体がなまっているなど。数値目標がバツになっていたとしても、加点提案としてテレワークの場所を提供したなどがあっても良かったのかなと思いました。

<渡辺委員>

こちらは1点ですかね。

<原田係長>

続いては西新井文化ホール事業です。加点項目として東京都公文協ホームページ立ち上げとあります。

<伊志嶺委員>

公文協のホームページはギャラクシティのホームページとは別ですか。

<原田係長>

別です。東京都の公文協でホームページを立ち上げてコロナの情報を掲載しています。

<酒井委員>

ギャラクシティの費用で公文協のホームページを立ち上げたのですか

<原田係長>

いいえ、指定管理料からの支出があったとは聞いていないです。協力したというところだと思います。

<伊志嶺委員>

公立文化施設はどうしたらいいかと悩まれているところが多かったです。全国公文協の動きは知っていましたが、都のホームページということは知らなかったのです、それはひとつ評価できるのではないのでしょうか。

<渡辺委員>

ここは5点でよろしいでしょうか

<原田係長>

続いて、区民応援型事業でございます。加算提案書の提出はありません。

<伊志嶺委員>

オンラインでワークショップなども出来たかとは思いますが。ワークショップを動画で作ることは技術があることなので難しいとは思いますが。

<高橋委員>

5カ年計画について事業者がバツとしている理由は何でしょうか

<原田係長>

リピート率について、アンケート集計ができず、数値が測れなかったためバツとしています。

<高橋委員>

紙のチケットの発券は施設で行っていますか。

<原田係長>

文化ホールでも行っていますし、他の区施設でも同じシステムで行っています。

<高橋委員>

アンケートができなかったとありますが、チケットにQRコードを埋め込むなど工夫は出来たはずだと思います。それをやらなかったということで指定管理者の評価と同じでよろしいかと思えます。

<原田係長>

評価対象年度ではありませんが、今年度についてはQRコードのアンケートを実施しています。

<渡辺委員>

それでは2点にいたします。

<原田係長>

続きまして、エンターテイメント型ホール事業です。

<伊志嶺委員>

概ね中止となっていますか。

<原田係長>

多くが延期になっています。9月に最初の公演が行われました。それ以外も定員制限などで中止になる公演もありました。

<伊志嶺委員>

延期が多かったから、配信コンテンツのようなものは作らなかったということでしょうか。

<原田係長>

そうだと思います。

<伊志嶺委員>

Youtube 動画のクオリティももう少し上がるといいなと思いましたが、公演が延期であったという事情があったかなと思います。

<田ヶ谷室長>

最初の契約でオンラインの契約はしておりませんので、できなかったということかと思えます。また、オンライン配信は儲かりにくいということもあると思います。有名アーティストとなると別ですけど、なかなか難しいと思います。契約上の問題や収益の問題などの実情があるということだけご理解いただければと思います。

<高橋委員>

逆にジャパンフェスタはなぜできたのでしょうか。

<田ヶ谷室長>

こちらは公演というよりイベントとして実施していたため配信も可能でした。

<伊志嶺委員>

これからオンラインもやっていかないといけない時に利益になるような方法でやっていかなといけないかなと思います。

<山縣委員>

コマーシャルを入れるとかでしょうかね。

<伊志嶺委員>

オルガンやピアノの内部にカメラを入れるなど、工夫をして普通のコンサートでは見られないような動画を作るといった努力をしているところもあります。

<渡辺委員>

ここについては中止ではなく延期が多いですし、コロナによる影響も大きかったと思いますので、高い評価ですけど5点ということでいかがでしょうか。

<原田係長>

続いて、エンターテイメント型ホールとしての成果です。こちらは動員率の目標75%のところ69%であったので指定管理者の評価はバツとなっております。

<高橋委員>

69%はすごいと思います。

<渡辺委員>

こちらは3点ですかね。

<原田係長>

続きまして、利用状況です。数字のみとなりますが、例年130万人のところ30万人であったというところで指定管理者はバツとしており、区は休館の影響があったとマルにしています。

<渡辺委員>

これは仕方ないと思うので、3点で良いと思います。

<高橋委員>

今後コロナが続くとして、利用人数と動画再生数を足すとかで測るようにした方が良いのではないかと思います。

<原田係長>

はい、評価方法について見直しをしていきたいと思います。最後については、アンケートの結果で点数が決まっております。

そうしましたら、休憩を挟んでその間に点数を集計いたします。

<原田係長>

点数の集計が終わりました。管理の履行について、1番6点2番6点3番6点の18点になりました。続いて安全性の確保については1番3点2番5点3番3点4番3点の合計14点になりました。続いて、法令等の遵守については1番3点2番2点3番3点の8点になりました。続いて適切な財務については、3点になります。続いて事業効果、こども未来創造館の取り組み1番3点2番5点3番3点4番3点5番4点6番1点7番4点8番3点9番1点で合計27点になりました。続いて西新井文化ホール事業1番5点2番2点3番5点4番3点の合計15点です。Cについては3点、Dは34点になります。このままいくと評価はBプラスになります。参考として昨年度はAマイナスでした。この結果を受けて委員さんで協議いただき、修正があるかどうかを話していただければと思います。

<酒井委員>

昨年度に比べて厳しい結果になったということ意識して頑張っしてほしいと思います。

<渡辺委員>

急な変化に対応することは難しかったと思いますが、もっと工夫できたというところもありました。

<酒井委員>

これで良いと思わないでいただけるという点では良い評価であると思います。

<渡辺委員>

変に甘い評価になるのもどうかと思いました。

<高橋委員>

もっと頑張っている同業者もいますからね。

<酒井委員>

パーセンテージはどれくらいでしょうか

<原田係長>

68%です。業務評価シートで評価委員記入欄がございますので、事前に各委員に記入いただいたものをまとめておりますので、その中から決めていただければと思います。最後の特記事項については委員長に記入いただければと思います。

【評価委員意見欄記入】

<渡辺委員>

意見は出そろいましたのでここまですります。

<原田係長>

最後に指定管理者や今後の評価委員会に向けてご意見はございますか。

<酒井委員>

指定管理者は民間事業者の事例を参考にしていけば必要はあると思います。

<伊志嶺委員>

西新井文化ホールの事業について、ジャパンフェスタはとても良いと思います。西新井文化ホールに個性がないと言われてきたので、そういう意味でも良かったと思います。

ただ、もう少し本来の意味での創造発信事業に取り組んでいただけたらと思います。

<山縣委員>

そのようなことを検討する組織などはあるのでしょうか。

<原田係長>

自主事業は指定管理者の中で検討しています。区としてそのような組織はありません。

<酒井委員>

区の方針の中で自由にやっていただくということですか。

<原田係長>

そうです。区の方針がありながらも、民間事業者の創意工夫によって創造的な事業を行っていただきます。

<伊志嶺委員>

芸術文化で社会包摂が期待されているので、足立区の特色として取り組むという案もあるのかなと思います。それか子どもに向けて取り組むなど。今は子ども対象という色はだいぶ付いてきたかなと思います。

<原田係長>

今年度よりあだちっこくらぶというこどもを歌が苦手な子どもがボイストレーニングを行って自己肯定感を育むようなクラブ活動事業を始めました。この事業はどの家庭でも参加できるように費用がかからないものは何かと考えて始めた事業になります。

<渡辺委員>

広報物の作成においてユニバーサルデザインとありますけれども、評価の仕方も難しい

とは思いますが、どういうことをクリアすればマルになるのかをはっきりさせると良いと思います。

**【事務連絡】**

<山縣委員>

以上をもちまして、足立区ギャラクシティ第2回運営評価委員会を閉会いたします。

**【閉会】**